

[活動報告]

19世紀学学会活動報告(2015年度)

2015年7月24日 (金)	学術講演会 ●石橋 悠人 (新潟大学現代社会文化研究科准教授) 「19世紀イギリスにおける時間秩序・技術・帝国」
2016年1月25日 (月)	学術講演会 ●トーマス・シュヴァルツ (立教大学文学部助教) 「太平洋をめぐる言説——ドイツ文学における太平洋」
2016年1月29日 (金)	学術講演会 ●長尾 伸一 (名古屋大学経済学研究科教授) 「複数世界論の論理と諸相——ヨーロッパ近代の展開を中心に」
2016年3月28日 (月)	シンポジウム クンストカマー——世界の蒐集とエクリチュール ●桑原 聡 「ドイツ・ロマン派の時代における Kunstkammer 概念の受容——ノヴァーリスとジャン・パウルの場合」 ●土屋 京子 「ドイツ近代文献学のトポスとしての『書庫』——E.T.A.ホフマン「黄金の壺」を中心に」 ●岡本 和子 「ドイツ市民階級の室内と蒐集——ベンヤミンとシュティフター」 ●伊藤 真実子 「江戸時代の蒐集文化——木村兼葭堂と好事家ネットワーク」 ●石原 あえか 「近代皮膚科学における芸術と技術——図譜および蠟製標本コレクションの管理と継承」